

2019年度 自己点検・評価シート

図書委員会

基準8

教育研究等環境

*各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか ○図書資料の整備と図書利用環境の整備 ・図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料の整備 ⑧・国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備 ・学術情報へのアクセスに関する対応 学生の学習に配慮した図書館利用環境(座席数、開館時間等)の整備 ○図書館、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有する者の配置</p>	<p>[現状説明] 環境面では通常の閲覧席に加え、個人閲覧室、グループ閲覧室(4人収容)、グループ学習室(12人収容)、静粛ゾーンとしてのキャレルスペース、さらにアクティブラーニングにも対応可能なブラウジングスペース等を備え、様々な利用者の要望に対応できる状況にある。またICT対応として館内設置のPCは貸出用も含め104台を数え、全館無線LAN完備のため、持ち込みのPCや各種モバイル端末の利用も可能である。開館時間は授業実施期間は9:00から21:10まで(土曜日は20:00まで)となっており正規授業終了後も一定時間開館しているため、利用環境として十分な対応がとれている。 利用者に提供しているコンテンツとしては、約81万冊の図書資料、約8,000種類の雑誌に加え、各種データベース、電子ジャーナルといった電子情報も増加しており、様々なメディアによる情報を迅速に提供できる状況にある。 専任職員8名中6名が司書資格を有しており、資格のない職員も図書館での勤務経験が長い大学図書館としての機能を維持するための体制をとっている。</p> <p>[長所・特色] 上記の通り多様な環境を整備しているため、個人での読書や学習にとどまらず、グループ学習やアクティブ・ラーニングにも対応可能となっており利用者にとって利用の幅が広がっている。 開架スペースが多いため、各種展示や推薦図書などのコーナー作りがしやすく、多様な形での資料の提供が可能である。</p> <p>[問題点] 館内設備のなかで、当初想定していたほどの利用がなされていない場所が見られる。</p>	<p>①2019年度以降の達成目標 ・利用促進のための展示企画の増加 ・教学および他部署との連携活動の強化(連携企画の増加) ・管内各設備の運用方法、物理的な改善の検討を行い、利用度の向上を図る。 ②達成度を測るための客観的な指標 ・展示企画ごとの展示資料利用(貸出)実績 ・連携企画ごとの参加人数 ・物理的改善のための予算計上</p>	<p>①2019年度の取り組みとその成果 ○展示企画実施 30件以上実施(別途、業務委託担当展示も実施) ○教学および他部署との連携活動の強化 「正課授業との連携」 ・特別企画講義「書を読もう。図書館へ行こう！」 図書 館長/複数講師によるオムニバス形式の講義 ・1年次フレッシュャーズセミナーa(図書館ガイダンス) ・ゼミのテーマに合わせた図書館ガイダンス ・データベース講習会 「他部署との連携」 ・学習センターとの企画講座 (レポートの書き方、文献の集め方、まとめ方 社史を利用した企業研究のすすめ) 「教員との連携」 ・館長の部屋 ・ブックトーク ・ビブリオバトル ・読書感想文/POPコンテスト ・図書館まつり ○館内設備の改善 ・2階個人閲覧席の扉設置実施(利用率向上) ・2階グループ学習室南ガラス面遮熱フィルム貼付実施(環境改善) ・ブラウジングスペース改修予算要求(利用率向上)</p> <p>②2019年度の取り組み後の問題点(課題) ・各種企画については、参加者を増やす。 ・利用環境の向上に努める。</p>	<p>A</p>	<p>・図書館利用活性化についての呼びかけ ・2019年度展示一覧 ・2019年度イベント/ガイダンス一覧 ・予算要求書</p>	<p>引き続きイベント・展示企画等の充実を図り、利用促進を行ってください。 また、教育・研究組織である図書館の収書等の予算要求作成も含めた運営方針や長期構想の構築を図ってください。</p>
<p>●教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>[現状説明] 入館者数、貸出冊数、館内利用資料の動向、予約制の部屋の利用統計などの統計を継続的に記録しており、利用促進策への連動を心がけている。 この統計については、毎年前期後期の2回、図書委員会での報告はもとより、事務局会議及び大学運営会議の場でも報告し、学内における意見の聴取の機会としている。 また、利用者からの投書、意見なども随時受け付けており、環境改善への材料とする場合もある。</p> <p>[長所・特色] 利用者管理、資料管理にICを活用しているため統計がとりやすい。</p> <p>[問題点] 施設利用等において個別の要望には可能な限り対応したいと考えているが、図書館の公共性、公平性の観点から必ずしもすべての要望に応えられるわけではない。</p>	<p>①2019年度以降の達成目標 定期的な課内ミーティングの際にも各種統計を提示し課員の共通認識として定着させ、環境の改善・向上に向けた意見交換を行う。 ②達成度を測るための客観的な指標 入館者数実績 貸出冊数実績 各種学習室の利用率実績</p>	<p>①2019年度の取り組みとその成果 ・入館者数、貸出冊数、館内利用資料の動向、予約制の部屋の利用統計などの統計を継続的に記録し、関連委員会にて報告、図書館利用への協力を呼び掛けている。 ・図書館入口及び図書館ポータルサイトに投書箱を設置し、意見を集約、改善につなげている。 ・大学で実施している学生アンケートの結果を参考に改善につなげている。</p> <p>②2019年度の取り組み後の問題点(課題) ・引き続き各種データ、意見、アンケート結果を基に教育研究等環境を向上させるべく取り組んでいく。</p>	<p>A</p>	<p>・各種利用統計 ・委員会議事録 ・サイボウズ掲示板</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>